

## 分野:基礎病態学

主科目 副科目	感染免疫病態制御学 Molecular microbiology and immunology	DM_1203	区分	選択必修	授業形態	演習 (講義・実習含む)
------------	--	---------	----	------	------	-----------------

担当	教授	准教授	講師	助教	客員教授・その他
板橋	◎斧 康雄		祖母井 庸之 永川 茂 上田 たかね 西田 智	佐藤 義則	廣畑 俊成 (客員教授)
-					
-					

	感染免疫病態制御学Ⅰ (1年次)				感染免疫病態制御学Ⅱ (2年次)				感染免疫病態制御学Ⅲ (3年次)			
	単位	4単位	配当年次	1年・通年	単位	4単位	配当年次	2年・通年	単位	4単位	配当年次	3年・通年
概 要	基礎医学研究に必要な微生物学、免疫学、医動物学に関する最新の知識を身につける。基礎研究に必要な基本的な実験手技を習得する。研究室内ジャーナルクラブでの文献紹介のための文献検索を適正に遂行することができる。				感染症学や微生物学、免疫学の研究に必要な基礎的実験および応用実験技術を習得する。研究に必要な文献の検索を適正に遂行することができる。学会発表のためのデータ解析やスライドを作成することができる。				論文作成のために必要な文献の検索を適正に遂行し、必要な情報を得ることができる。研究によって得られたデータを客観的に正しく解釈し、適切な考察を加えることができる。			
到達目標	感染症全般について基本的な診断法や治療法に関する講義を行い知識を修得する。基礎医学、特に微生物学や免疫学の分野に必要な基本的実験技術を修得する。無菌的な細菌学的実験操作、滅菌法の基本、免疫学的実験法の基本を繰り返し実施して身につける。				毎週行われるセミナーにおいて、感染症の国内外の最新情報や診断や治療に関する講義を行い知識を修得する。細菌学や医動物学、免疫学の分野に必要な応用的実験技術演習を行い、技術を習得し、自ら実践できる。研究に必要な免疫学的実験法や分子生物学的実験方法を実習を通して身につける。				毎週行われるセミナーにおいて、感染症の国内外の最新の発生状況や診断・治療に関する講義を行い知識を修得する。細菌学や免疫学の分野に必要な最新の応用的実験技術を演習を通して習得する。実習において、これまでに習得した実験手技を研究に応用し実践できる。学会発表のための文献を収集し、内容を熟読し理解する。			
事前事後学修	基礎医学、特に微生物学や免疫学の分野に必要な基礎的な文献を読む。1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。				感染症の国内外の情報や診断や治療に関する最新文献を読む。1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。				研究論文に関するこれまでの公表論文や最新文献を読む。1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。			
評価方法	受講態度 30% (発表、課題提出、リアクションペーパー) 実習・演習態度、レポート 70%				受講態度 30% (発表、課題提出、リアクションペーパー) 実習・演習態度、レポート 70%				受講態度 30% (発表、課題提出、リアクションペーパー) 実習・演習態度、レポート 70%			

## ■主な演習(講義・実習含む)

	感染免疫病態制御学Ⅰ (1年次)	感染免疫病態制御学Ⅱ (2年次)	感染免疫病態制御学Ⅲ (3年次)
板橋	月 曜日 16 : 00 ~ 17 : 00 免疫学・遺伝子解析の講義/リサーチカンファ	月 曜日 16 : 00 ~ 17 : 00 感染症・遺伝子解析の診断の講義/リサーチカンファ	月 曜日 16 : 00 ~ 17 : 00 感染症・遺伝子解析の治療の講義/リサーチカンファ
	火 曜日 9 : 30 ~ 16 : 00 食細胞機能解析	火 曜日 9 : 30 ~ 16 : 00 食細胞機能解析	火 曜日 9 : 30 ~ 16 : 00 食細胞機能解析
	木 曜日 9 : 30 ~ 17 : 00 免疫細胞や細菌の遺伝子解析	木 曜日 9 : 30 ~ 17 : 00 免疫細胞や細菌の遺伝子解析	木 曜日 9 : 30 ~ 17 : 00 免疫細胞や細菌の遺伝子解析
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
-	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :

## 教科書・参考書

1) Mandell, Douglas, and Bennett: Principles and Practice of Infectious Diseases, 8th Edition 2) Michael R. Green & Joseph Sambrook: Molecular Cloning: A Laboratory Manual, 4th Edition 3) Abul K. Abbas & Andrew H. Lichtman: Cellular and Molecular Immunology 8th Edition 4) レジデントのための感染症診療マニュアル(医学書院) 5) 感染症専門医テキスト(南江堂)

## その他履修上の注意事項

研究内容によっては、国内外での研修や研究も一定期間可能である(随時相談に応じます)。  
熱帯医学などに興味がある場合は、海外での研修・研究も可能である。  
試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。  
この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

副科目 生体防御感染症学Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ、免疫・代謝学Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ、呼吸器・アレルギー学Ⅰ,Ⅱ,Ⅲなど

共通科目 感染症学特論

## 関連する専門医資格

- 1) 卒後3年から認定内科医(日本内科学会)
- 2) 卒後6年以上で感染症専門医(日本感染症学会)
- 3) 卒後6年以上で認定内科専門医(日本内科学会)
- 4) 規定の回数の講習会参加で感染制御医/ICD(感染症関連学会)

## キャリアパス(モデルコース)

